



福井市こすもす会

～みんなでお互いを支えあう活動を～

福井市母子寡婦福祉連合会(通称:福井市こすもす会)では、母子・父子家庭や寡婦の同じ立場にある方々が集い、行事や研修などを通して、仲間づくりや情報交換などを行っています。

その中のlittleこすもす部(お子さんが25歳未満の方を対象)では、毎月子育て応援広場を開催しており、5月29日(日)のサロンには10組の親子づれが参加しました。また、この日は「いのちをつなぐ福祉活動」として、生活用品緊急支援物資配布も行いました。

長らく新型コロナウイルスの影響で、普段の生活に支障をきたしているひとり親家庭は少なくありません。少しでも応援しようと、寄附などを活用して、日用品や食料品をお渡ししました。

配布には、サロンの参加者をはじめ、会員の親子連れが続々と来られ、「いつもたくさんの物資をありがとうございます。」「またサロンに来たい!」と笑顔で受け取っていました。

会長の安野淑子さんは、「会員の皆さんは毎回とても喜ばれています。また、単なる支援物資の受け渡しだけでなく、こういった機会をきっかけに、親御さん同士や子ども同士、スタッフとふれあって、悩みごとを聞く場にもなっています。」と話してくれました。



◀支援物資配布のようす



▲子育て応援広場のようす

だれでも食堂 夕焼けこやけ

～いろいろな人の出会いと居場所になれば…～



夕焼けこやけは、毎月第4金曜日の夕方、福井キリスト教会(町屋3丁目)が拠点の“だれでも食堂”です。きっかけは、代表の平良民枝さんの経験。以前住んでいた福岡県で、さまざまな障がいを抱えた方たちを中心としたふれあい食堂に関わりがあり、福井でも子どもからお年寄りまで、障がいの有無や国籍に関係なく、だれでも、いろいろな方々と一緒にごはんを食べ、安心してお話ができる居場所になればと願って2021年6月にスタートさせました。

細々と始めましたが、県内の子ども食堂の関係者、野菜やお米などの食材を提供くださる企業や農家の方々とつながり、地区内で暮らすひとり親家庭や外国人との出会いもあり、最近は毎回約80人分の食事を作っています。コロナ予防のため、テイクアウトのお弁当が中心ですが、時々は庭にテントを張り、テーブルにパーテーションを置くなどの感染対策をしながら、楽しくごはんを食べ、子どもたちが一緒に遊んで過ごすこともあります。

平良さんは、「スタートから1年が経ち、地域の中でつながりや安心を感じてもらえるようになりました。今後も工夫し、みんなの声に応えたい。細く長く続けるモットーは、無理をしないこと。誰もが人と比較せず、自分のやれる範囲で楽しむことを大切にしたいです。」と語ってくれました。

調理や盛り付けなど、関わるボランティアも8人程度になり、月1回ボランティア会で前回の反省や献立を考えています。

